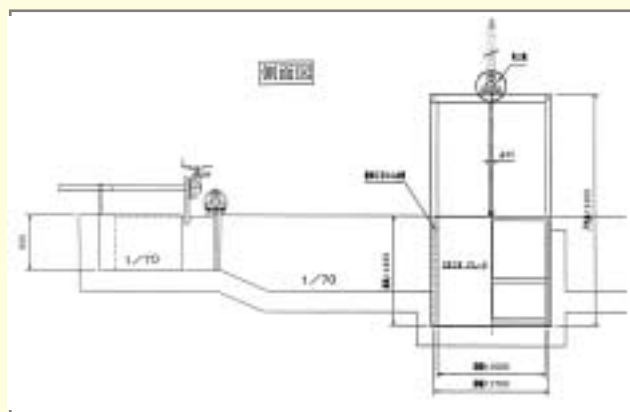
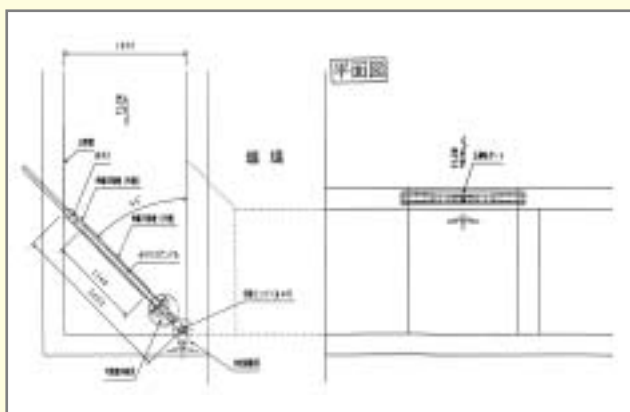




構造の一例



■「可動斜壁」～堰堤上流に設けた水路と流下方向の水路の交差部に設けた金属製の壁で、衝撃波を発生させて魚道に溜まった土砂を、溪流に排除するためのもの。この壁を伸縮することにより、所定範囲で水路流心方向の角度が変更できる。壁構造は、外壁と内壁が中空ボックスで外壁にスピンドルを設置し、可動伸縮用巻上機で伸縮する。壁回転部はヒンジ構造とし角度調整用ハンドルを設置。斜壁と水路側壁の接触部分は水密ゴムを取り付けた構造を標準とした。

■「射流形成用斜路」～水路内の土砂を完全に排砂させるため、魚道底面の一部を流れが射流状態になるように、水路内に急勾配の区間を設けてある。

勾配は限界勾配より急にする必要があり、溪流毎に値が夫々異なるが、実際の沈砂池設計では1/50～1/70の値とすることから、1/70を採用。

■「土砂溜め部」～斜路下流を魚道底面より一段低くし、上流からの土砂を順次、集中的に溜めるためのポケット部、大きさは溪流の状況や土砂排除回数等を勘案して決める。

■「排砂ゲート」～土砂溜まりの側方に、開放ハンドル付のゲートを設置し、そのゲートを開け斜壁と射流形成斜路により衝撃波と射流水を発生させ、魚道内に一時的に溜まった土砂を溪流内に還元する。